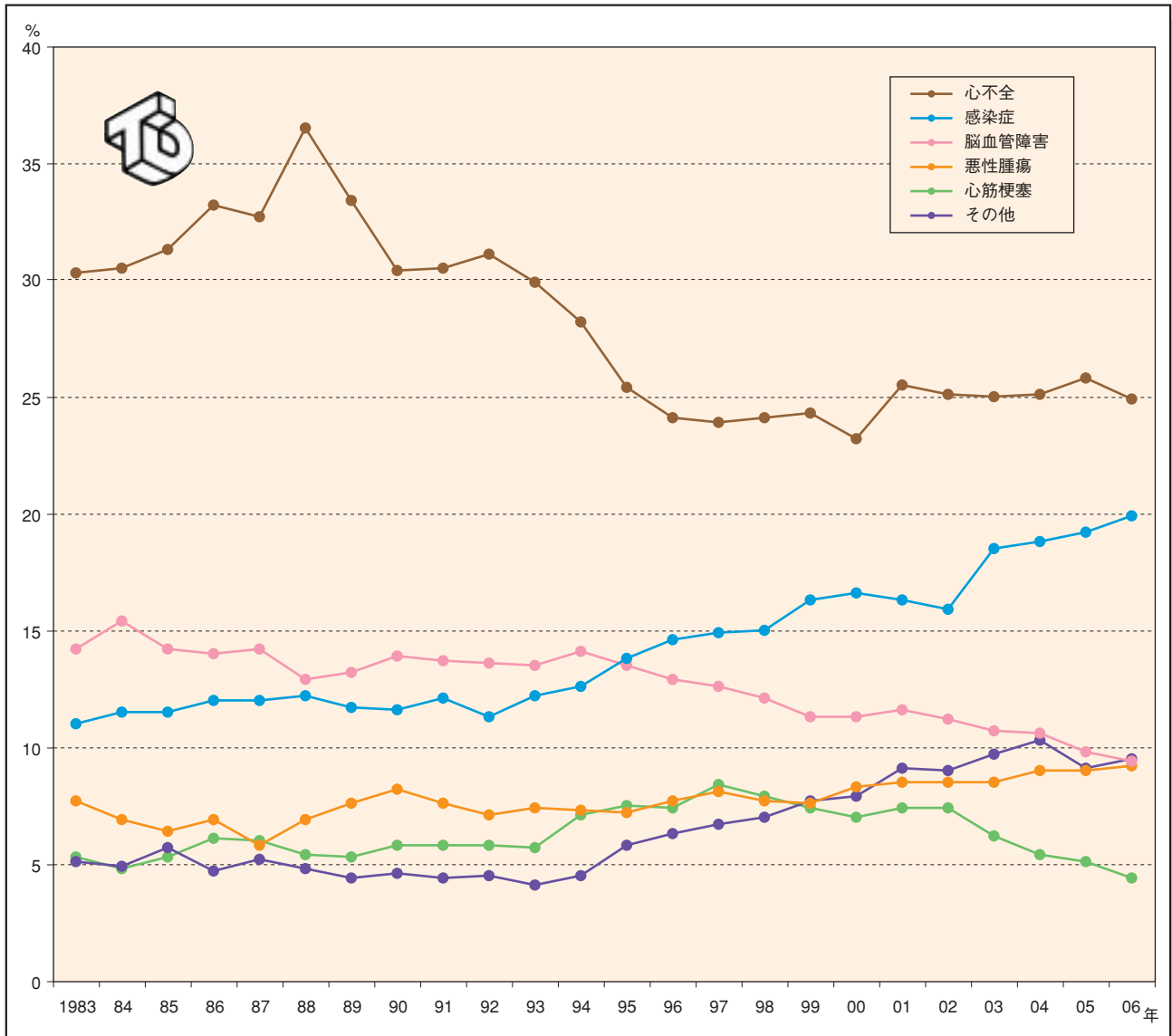


5) 死亡原因

(4) 年別死亡原因の推移 (図表19)



解説

年別死亡原因の推移

死亡原因の第一位はあいかわらず心不全である。その頻度は1988年以降着実に減少していたが、1996年以降横ばいとなり、2001年以降若干増加したが、2006年では24.9%であった。第二位は感染症である。1993年頃から増加傾向が始まり、2003年から急増している。2006年では19.9%であった。この背景には感染に対する抵抗力の減弱した高齢者や糖尿病患者の増加があると考えられる。一方、脳血管障害は1994年以降一定した減少傾向がみられる。心筋梗塞は2002年以降減少傾向にあり、カテーテルインターベンションなどの治療が奏功していることを反映していると考えられる。